Editorial

脂肪肝は重要な疾患か

金子 周一

〔日内会誌 105：7～8, 2016〕

Key words 脂肪肝, NAFLD, NASH, メタボリックシンドローム

健康診断などで軽度のトランスアミナーゼの上昇がみられ、肝炎ウイルスが陰性のときに“心配することはありません。脂肪肝でしょう。やせてくださいね”といった診療が現在も広く行われている。これに対して、非アルコール性脂肪性肝疾患（non-alcoholic fatty liver disease：NAFLD）は非アルコール性脂肪肝炎（non-alcoholic steatohepatitis：NASH）に進行し、さらには肝硬変、肝がんになるので、脂肪肝と診断したら単純な脂肪肝（simple steatosis）とNASHとを分けることが必要であるといわれるようになってきた。しかし、健康診断を受ける3割近くの人にNAFLDがあり、肝炎ウイルス陰性の肝硬変を経験することはあっても、外来で観察している単純な脂肪肝の患者がNASHを経て、肝硬変や肝がんに行進したという経験をするのは少ない。NASHの診断には肝生検がgold standardというもの、肝生検は侵襲のある検査であり、必要な患者がどのような症例であるのか、NAFLDの診断、そして、治療となるとさらにわかりにくい。

最近、NAFLDは内臓脂肪と同様に、心・脳血

管障害、腎障害、さらには発がんと密接に関連しており、NAFLDは重要な疾患であるという報告が国内外から相次いでいる。内科領域の疾病構造は大きく変わり、日常診療で遭遇するのは高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満などのいわゆる生活習慣病が中心となっている。WHO（World Health Organization）も従来の感染症中心の活動に加え、世界における非感染性疾患（noncommunicable disease：NCD）の重要性を認識し、NCDに対する新たな対応方針が決まっている。すなわち、NAFLDが肝硬変、肝がんと進行することは極めて重要であるが、NAFLDがさらに現代の医療を席巻しているメタボリックシンドロームと関連するとなると、NAFLDの日常診療における重要性は大きなものとなる。

内臓脂肪がメタボリックシンドロームに果たす役割がよく示されている。脂肪化は全身に生じているため、NAFLDが内臓脂肪から独立した危険因子であるのか、また、内臓脂肪、筋肉、肝臓などの臓器相互の関係はどうなっているのかが問われている。NAFLDが全死亡、心・脳血管障害、がんの発症に直接に関与しているとい

金沢大学附属病院消化器内科

Clinical Importance of Non-alcoholic Fatty Liver Diseases. Editorial：Fatty liver important?

Shuichi Kaneko：Department of Gastroenterology, Kanazawa University Hospital, Japan.

う明確な証拠が揃っているのかといえば、傍証は多く示されるようになってきているものの、大規模な前向き試験による結果は示されていない。というのも、NAFLDの診断にトランスアミナーゼ値や腹部エコーが用いられており、NAFLDに対する診断の感度と特異度が低いことが大きな問題となっている。NAFLDという患者集団は相当に多様な病態を有している。そして、全死亡、心・脳血管障害、がんという何十年もの観察が必要な研究は難しい状況である。

内臓脂肪の研究ではアディポサイトカインの発見が大きな貢献をしている。肝臓においても産生するヘパトカインの研究が始まっており、まさにこれからの領域である。肝臓は代謝を専

門とする臓器として発生し、進化してきた臓器である。長い飢餓の時代に進化したこの臓器が、最近になって脂肪化するほどの飽食の時代に、人体にどのような役割を果たしているのかが明らかにされようとしている。こうした状況の中、今回の特集は世界のNAFLDに対する研究の動向をまとめたものであり、日常でよく遭遇する、これまでの脂肪肝の概念を大きく変える特集である。そこで、この領域を中心的にまさに活躍している先生方に執筆をお願いした。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：金子周一；報酬 (MSD)，講演料 (MSD)，研究費・助成金 (MSD)